

Ⅱ 水産海洋研究情報座談会

主催 水産海洋研究会

日時 昭和41年9月2日午後2時～午後5時

場所 東京水産大学図書館会議室

コンピーナー 宇田道隆(東京水産大学)

話題および話題提供者

米国ワシントン大学(シアトル)より帰つて 小牧勇蔵(東京大学農学部)

世界海洋開発技術研究の動向 佐々木忠義(東京水産大学)

1 米国ワシントン大学(シアトル)より帰つて

小牧 勇 蔵 (東京大学農学部)

昭38～41年の3年間滞在し、ワシントン大学海洋学部でK. Banse 教授の下でプランクトン研究に従事した間の見聞、生活経験など。同大学は1934年創立、海洋学部、フライディ・ハーバー臨海研究所、応用漁業研究所、動物学部、陸水研究所、水産学部(School of Fisheries)などがある。海洋学部長R. H. Fleming 教授(副学部長 Barns 教授)の下に教育及び研究幹部23名(生物学7、化学2、物理6、地質・地球物理7、測器工場(音響学)1)。学生数は、

第1表 年度別学生数

	学部	大学院
1962年	128名	40名
63	173	52
64	199	69
65	255	78

第1表に示すように急増増加している。1964年に海軍のダルマ船(バージ)を改造し事務室等にあっており、Marine Science Building という新ビルをつくつておる。水産一海洋共有の図書室、カレッジあり、動物学の人移つて来ている。現場調査のためには現在5隻の調査船隊をもつ。1965年夏竣工のT. G. Thompson 号(同海洋学部を創設した学者名をとる。1,200トン、

処女航海カリブ海で大故障、ドック入)、Brown Bear号(250トン)、Hoh(生物学用)Onar号及びTenas号(物理、地質用)。別に水産学部にはCommondo号があり、会社船を契約チャーターもする。Friday Harbor Laboratory では夏季講座を年々開いて一流教授を講師に招いている。学部への外部からの研究費(1965年の例)は国立科学財団から300万ドル(1億円余)、海軍研究部200万ドル、原子力委員会114万ドル、米国厚生省13万ドル、北極研究所8万ドル、その他2.8万ドルといつたぐあいである。

(以下1人1人の科学者の研究内容紹介があつたが省略する。)